

(様式第3号)

平成26年度調査研究中間報告書

調査研究 課 題	VNTR を用いた結核菌分子疫学分類確立のための調査研究
計画期間	平成25年度～27年度 3年間
調査研究 計 画	<ul style="list-style-type: none">・24領域VNTR法の方法の検索と検査環境の整備・従来法であるRFLP法および12領域VNTR法と比較することによる24領域VNTR法の有効性の検討・VNTR法による茨城県内発生結核菌株の解析及びデータ蓄積
進歩状況	<ul style="list-style-type: none">・初年度である平成25年度は24領域VNTR法の検査法の検索と当所における検査環境の整備をおこなった。・平成25年度までに当所に搬入された結核菌株の保存をおこなった。
これまでの 成果の 概 要	<ul style="list-style-type: none">・測定機器であるシークエンサーのセットアップおよび使用方法解説のためのシークエンサー研修を受講。・千葉県衛生研究所での研修を受講し、24領域VNTR法の解析方法の詳細を習得した。・24領域VNTR法に必要な試薬等を揃え当所での検査環境を整備した。・関東ブロック地研でおこなわれた24領域VNTR精度管理に参加し、共通株の測定結果の比較をおこなった。
今後の 計画・課題 対応方法	<ul style="list-style-type: none">・従来当所で行っていたRFLP法での検査は手技が煩雑で時間がかかる。そのため、より簡便かつ迅速なVNTR法と解析結果(クラスター形成率等)を比較しVNTR法の有効性を検討する。・県内で発生し当所で保管されている結核菌株についてVNTR法での解析をおこない、県内発生株のデータベースを作成する。平成26年度は茨城県内発生菌株71検体の解析を行う。

※ 研究成果等の資料があれば添付すること。

中間評価結果報告書

平成 26 年 7 月 17 日

調査研究課題		VNTRを用いた結核菌分子疫学分類確立のための調査研究	
評価項目	評価	意見	備考
①必要性	5, 3, 5, 4, 5, 5 平均評価点：4.5	外部委員 ・24領域を増やすことの意義について、TB対策上の有用性をより明確にすることが必要。 内部委員 ・海外などでVNTR以外に、新たな方式が模索されていないかについて、よく調べながら研究を進めてほしい。	
②進捗状況	4, 4, 4, 3, 4, 3 平均評価点：3.7		
③計画の妥当性	4, 4, 4, 3, 5, 4 平均評価点：4.0		
④目標の達成及び活用可能性	4, 4, 4, 4, 5, 4 平均評価点：4.2		
⑤総合評価	4, 4, 4, 3, 5, 4 平均評価点：4.0	外部委員 ・衛研間の連携の下による研究として意義がある。 ・重要な発展をする可能性があり、結果の発展を期待する。 ・機器操作技術の習得が到達点とならぬよう、今後の成果に期待したい。 内部委員 ・保健所の結核対策にとって大変重要であり期待は大きい。	

⑥継続実施の評価 A：実施相当 B：計画を見直し 実施相当 C：実施不可相当	A：6人 B： C：				
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">最終評価</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: top;"> 評価の理由や助言等 (評価「B」の場合は見直しを要する事項) </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C </td> </tr> </table>			最終評価	評価の理由や助言等 (評価「B」の場合は見直しを要する事項)
最終評価	評価の理由や助言等 (評価「B」の場合は見直しを要する事項)				
<input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C					

評価点 1：不良 2：やや不良 3：普通 4：やや良好 5：良好